

平成 30 年度 因島北認定こども園 自己評価結果

1 因島北認定こども園教育・保育目標

『心身ともに豊かな人間形成の基礎を培う』
(1) 基本的な生活習慣の自立を目指す
(2) 人とのかかわる力をつける
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の感情をコントロールする力 ・人の話を聞き、自分の思いや考えを話す力 ・自発性や主体性が育ち協同的遊びをする力

2 本年度に定めた重点的に取り組むことに必要な目標や計画をもとに設定した因島北認定こども園の評価の各年齢の具体的な目標や計画

『心と身体をたくましく育てよう』
① 自己肯定感を持たせる
② 仲間と共に助け合い、共感できる力を育てる（社会性・共感性）
③ 自から熱中できる力を養う（主体性・意欲）

3 評価項目の達成及び取り組み状況

A	十分達成されている	C	取り組まれているが成果は十分ではない
B	達成されている	D	取り組みが不十分である

評価項目	内容	結果	理由
子どもの発達援助 (1) 発達援助の基本	○一人一人の園児の発達状況に配慮した指導計画を作成し、定期的に評価を行い、その結果に基づき指導計画の見直しを行われているか。 (PDCAサイクル)	B	「幼保連携型認定こども園教育保育要領」が、平成 30 年度より「新幼保連携型認定こども園教育保育要領」に改訂された。外部講師（安田女子大学教育学部教授）の指導を受け、因島北認定こども園教育保育課程も新しい「全体的な計画」を作成した。 それに併せて週間指導計画の様式も改良を加え、より子どもの姿に添った指導計画を作成することができた。3 月末にはそれを基に再度外部講師を招聘し指導を受けた。

<p>(2) 健康管理・食育</p>	<p>○一人一人の健康状態に応じた健康管理が行なわれているか。</p>	<p>A</p>	<p>毎月保健日より「元気っ子だより」を配布したり、毎日欠席児の罹患状況を掲示板で保護者に知らせたりすること、で家庭でも健康管理に留意してもらった。</p> <p>インフルエンザの感染症では、家族の中に罹患者がいる場合、送迎者が園内に入らないよう門にて子どもを預かる方法をとった。また登園している子どもにもマスクの着用を徹底した。</p> <p>園内でも手洗いうがいの励行を行い、成果として感染症の罹患園児が少人数に抑えられ、全体として子どもの健康管理がはかられた。</p> <p>0・1・2歳児クラスでは、登園時に毎朝保護者に検温してもらい健康管理を意識してもらっている。朝、検温による保護者とのスキンシップが園児の情緒を安定させ安心して集団生活に入っていくことにつながっている。</p> <p>また、食物アレルギー児に対しては専門医のデータや指示書を基に、保護者・園長・看護師・担任・管理栄養士・調理員と面談を行い安全な除去食の給食を提供している。</p>
	<p>○「因島北認定こども園の食育年間計画」を基に、意欲をもって食にかかわる経験を積み食事を楽しむ子どもに育てているか。</p>	<p>A</p>	<p>栽培・収穫、クッキング保育、三食食品活動運動を通して食育を行った。</p> <p>栽培した野菜を用いて保育参加日に親子クッキング保育を行い、親子共に食と健康に関心を持たせることができた。</p> <p>食育講座を開催し「食の大切さについて～知・徳・体のベースは食育、特に朝ごはん～」では、日本食育協会食育指導士の方に来ていただき、子どもたちの体を作る安全な食材や</p>

<p>(3) 保育環境</p>	<p>○園児が自主的に活動できる環境の工夫が行われているか。</p>	<p>B</p>	<p>料理法について学び、事後のアンケートから「家庭でも実践していきたいと考えるようになった」等の保護者の感想が多かった。</p> <p>安田式体育遊び「こども忍者タイム」では、子ども達の興味関心と個々の発達に合わせて、体育遊具の配置や使用するものの組み合わせを徐々に改善させることで心と身体の育成ができた。</p> <p>1・2歳児クラスでは子どもの成長や特性に配慮し、保育室の広さを変化させたり、生活と遊びのスペースを分類したりすることで、落ち着いた環境の中で発達を促すことができた。</p> <p>また0歳児クラスでもカーテンや天蓋を取り付け、安心して生活（養護と生命の保持）ができるように環境に配慮した。</p> <p>園舎内では、四季に応じた子どもたち手作りの壁画を飾り、自分たちが育っている地域の自然の移り変わりを感じさせた。このことは園児に自然や地域に興味関心を持たせる一端を担い、情緒を豊かにすることにもつながった。</p>
<p>(4) 教育・保育内容</p>	<p>○園児一人一人を受容し理解を深めた働きかけや援助が行われているか。</p>	<p>B</p>	<p>社会福祉法人若葉の理念と因島北認定こども園教育・保育内容のつながりについて、園内研修で職員一人一人が主体性をもって検証していった。</p> <p>ア) 園児本人の力 イ) 生活の援助 ウ) 地域の理解</p> <p>この3点を基にさらに教育保育内容を再構築していった。</p> <p>家庭環境の厳しい園児への取り組</p>

	○地域の教育力を活かした教育・保育内容が構築されているか。	A	<p>みとして、保育ソーシャルワーカーに来園してもらい、家庭の背景・園児を中心とした家族関係やその他の関係者を明確化し、課題を見極め今後の取り組みの方向性を導いていった。</p> <p>昨年度の取り組みに加え、地域から講師を招聘し、年長児を中心に絵画教室・音楽療法「ミュージックタイム」を計画・実践し、子どもたちの成長を促した。</p> <p>絵画指導では描くことに不安感を持っていた子どもが心を開きのびのびと描けるようになってきた。音楽療法では、音感を育むだけでなく心の成長の発達も促すことができた。また個々の様子を記録することで成長がデータ化され数字で見とることができ、援助と配慮の参考とした。</p>
小学校との連携	○小学校との連携が円滑に行われているか。	B	<p>今年度の特徴的な実践としてアプローチカリキュラムとスタートカリキュラムの接続の視点「人と関わり主体的に学ぶ子どもの育成～聴く・話す・気付く活動の工夫を通して～」を具体的な活動として明確化させることで整合性が図られている。</p> <p>相互のカリキュラムの取り組みを情報交換し、授業参観や研修会・行事等の相互交流で滑らかな接続が図られるようになっている。</p>
子育て支援 (1) 保護者への支援	○保護者と信頼関係を築き連携や情報交換を行いながら教育・保育に	A	<p>今年度の特徴的な取り組みとして、教育・保育の見える化と内容の理解を深めるために【ドキュメンテ</p>

<p>(2) 地域への支援</p>	<p>関する理解を深めているか。</p> <p>○保護者支援の方法について専門性を持っているか。</p> <p>○地域の子育て支援の拠点として、地域の子育て家庭を対象とする子育て支援を行っているか。</p>	<p>B</p> <p>B</p> <p>B</p>	<p>ーション】を作成した。</p> <p>子育て支援室（こっこ組）や一時保育室（いちご組）を含め全クラスが定期的継続的に作成し、玄関に掲示して保護者や来園者に見ていただき理解を深めてもらった。保護者からは「日々の保育や子どもの姿がよくわかった」という感想が聞かれた。</p> <p>また親子で観覧することで会話が生まれ親子関係を豊かにすることにもつながった。</p> <p>園内研修で、カウンセリング法を用いた保護者対応についてのロールプレイをペアで行い、目を見てうなずきながら傾聴していくことでどうい印象を受けるのか体験していった。</p> <p>コーチング法では、質問形式の会話で保護者自らが子育ての方向性を導きだしていく方法を演習し、この方法では、保育教諭が上から目線で指導する形態が回避でき、一緒に子育てについて話し合える関係性が築けることにつながった。</p> <p>講師を招聘し「接遇について」研修会を行う。保護者の思いや願いに沿った保護者支援をすることができた。</p> <p>子育て支援室（こっこ組）では、遊びの場を提供し、必要に応じて子育て相談や子育てに関する情報を提供した。</p> <p>一時保育室（いちご組）では、保護者が安心して未就園児を預けられるよう安全面に配慮し、信頼関係を築いていった。</p> <p>また、こども園の生活や遊びを親</p>
-------------------	---	----------------------------	---

			<p>子で経験してもらうために『こっこといちごのフェスティバル』を開催し、戸外遊び・体育遊び・砂遊び・水遊び・制作遊び等を計画した。事後のアンケートでは「楽しんで活動できた」等の内容が書かれていた。</p>
<p>子どもの安全 (1) 安全管理</p>	<p>○事故や災害、不審者に適切に対応できる体制があるか。</p>	A	<p>交通安全指導や安全指導を含む保健衛生指導を毎月実施。今年度は保護者にも知ってもらうために「ねらいと内容」「指導を受けている子どもの姿」「保護者に対する啓発」について写真と共に文書を記載したドキュメンテーションを掲示できた。</p> <p>不審者対応訓練は、年に2回行った。1回目は映像を基に「いかのおすし」(行かない・乗らない・大声を出す・知らない人についていかない)の合言葉を定着させていった。2回目の訓練では、因島警察署の職員に不審者に変装してもらい、職員の不審者に対応する様子や子どもを避難させた様子を見てもらい指導を受けた。門扉のオートロック化や防犯カメラの活用等、防犯体制について高い評価をいただいた。</p>
<p>(2) 衛生管理</p>	<p>○食中毒や感染症に対する予防や対策についてマニュアルに基づき適切に実施しているか。</p>	A	<p>感染症が流行した場合には、罹患児数を最小限にとどめるため各年齢に応じた手洗い・うがい・換気を徹底させ、保育室の清掃・消毒、玩具の消毒等を定期的または、必要時に行った。</p>
<p>(3) 危機管理</p>	<p>○危機管理マニュアルに基づき園児の安全に留意し適切に対処しているか。</p>	B	<p>毎月の職員会議で、リスクマネジメント計画に沿って研修をしていった。ヒヤリハットやケガの報告・危険な箇所の情報共有等を行うことで</p>

			職員の危機管理・危険回避に対する意識を高めた。
運営管理 (1) 組織運営	○職員間の信頼関係を築き教育・保育についての意識統一ができており、それぞれの適切な役割ができていますか。	B	<p>研修会の持ち方として今年度は、研修報告に関しては印象的だった感想を述べるにとどまり、詳しくは資料や報告書の回覧をすることとした。</p> <p>限られた研修時間を職員の専門性を育み有意義な時間とするため、グループワークを行い、若手職員・中堅職員・ベテラン職員（主任）がそれぞれの考えを出し合ったのち、全体の場で報告し合い、課題に対しての取り組みに専門性を持たせ共有することができた。</p> <p>このような研修会を基に主体的で同僚性を生む関係性を築いていった。</p>
(2) 守秘義務の厳守	○保護者や子どものプライバシーの保護、知りえた事柄の秘密保持をはかっているか。	B	<p>ミーティングで様々な情報を交換しているが、知りえた個人情報仕事以外では口外しないことを常に徹底している。</p>

4 第三者評価委員からの具体的な目標や計画の総合的な評価結果と今後

結果	理由
A	<p>本園は、中庄幼稚園と外浦保育所・大浜保育所の廃園・廃所に伴い、地域の大きな期待を受け、教育・保育目標『心身ともに豊かな人間形成の基礎を培う』を掲げ、開園して今年度は3年目を迎えた。</p> <p>その中で、『新幼保連携型認定こども園教育保育要領』が改定に伴い自園の教育課程の見直しが行われ、職員研修の実施により職員全員がこれまで以上に個々の特性を理解しながらの“子どもの姿に添った教育・保育内容”を模索し創造しようと尽力している。</p> <p>とりわけ、本園の特色ある“地域の教育力を活かした教育・保育内容”については、2年間の積み上げを礎に豊富な自然や優良な施設の活用に加え時機を得た外部人材の活用等によるカリキュラム策定と実施が、就学前の子育てや義務</p>

	<p>教育の「基本的な生活習慣」「人と関わる力」「自己肯定感」「協同的な学び」等の課題解決において大いに評価される。</p> <p>園行事等においても、アプローチカリキュラムの一環として小学校の学びに繋がるものが企画され、興味関心から知的好奇心への揺さぶりも感じられ、小学校との学びや指導の連続性を意識した連携もできている。</p> <p>子どもの安全・安心な生活に向けて、健康管理を含めて保護者を巻き込んでの多様な積極的な取組、またその内容を“ドキュメンテーション”として周知徹底させたことは保護者のみならず関係者の信頼を厚くしている。</p> <p>今後も、保護者の思いや願いに応えられるユニークな取組を期待する。</p> <p>最後に組織運営については、園長の率先垂範から全ての保育教諭が良い緊張感を持って丁寧な情報共有や職務遂行ができており、組織としての一体感があり、諸対応に保護者の理解や協力も得られている。</p> <p>引き続き、さらに複雑な子育て支援に対応でき保護者を指導し切れる保育教諭のための資質向上研修をはじめ、「新幼保連携型認定こども園教育保育要領」を具現化し「全体計画」のカリキュラムづくりのための職員研修の実施により、特色ある園づくりや新しい園の伝統が図られ、“地域に期待され・地域に誇れる園”として安定した経営が得られることを確信する。</p>
--	---